

2013年(平成25年)4月12日 金曜日

未開市場に 売って出る

モンゴルで温水循環加熱装置販売

日本建装工業
社長

池辺 和寿氏

加熱装置を開発。現在モンゴル市場の開拓に力を注いでいる。(大分支局長・広木竜彦)

「販売している製品は、

「電子瞬間湯沸かし器や開発した温水循環加熱装置などだ。首都ウランバートルを中心に2008年から現地企業と協力して販売している」

日本建装工業(大分市)は、米エマックス(コネチカット州)製の電子ヒーターを利用した住宅用温水循環加熱装置を開発しています。



熱源器に電子ヒーターを利用して室内を暖房する

現地部品使い、低価格化

「冬のモンゴルは約30度Cを下回る寒冷地で、石炭ストーブを使った温水循環暖房で暖を取る家庭が多い。だが近年は石炭価格の高騰が市民生活を圧迫。また市内上空は石炭ストーブの煙でスモッグが発生して環境が悪化している。当社の温水循環加熱装置を使って室内暖房する家庭は石炭消費が従来より約4割減ったと聞く。暖房費の削減ができ、さらに環境に配慮した製品として優位性は高いと感じている」

「市場開拓の課題は、

「日本との所得格差の開きだ。当然ながら日本仕様の製品を現地に持ち込むことはできない。現地価格に見合った製品化に向け、温水循環加熱装置の一部品を現地調達し、日本価格の3分の1程度まで価格を抑えている」

「今後の展望は、

「ウランバートルの人口は約128万人。人口増によりマンションや個人住宅の建設が進むなど市場への期待感が高い。まだまだ製品知名度は低く苦戦しているが、3年後はモンゴル、中国を含めた海外売上比率を現在の約1割から約3割まで引き上げたい」